

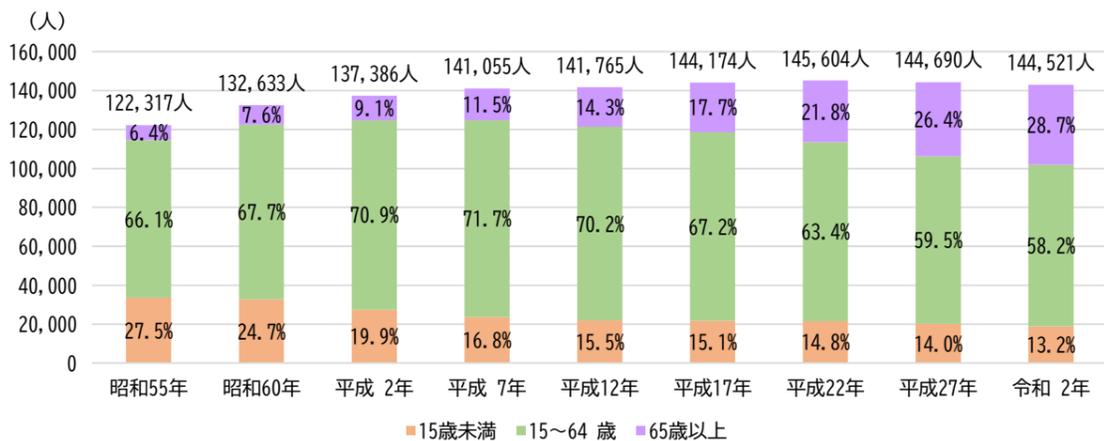
1. 基本的現況

現状整理 (◎本市の強み ●本市の弱み)

【人口動態】

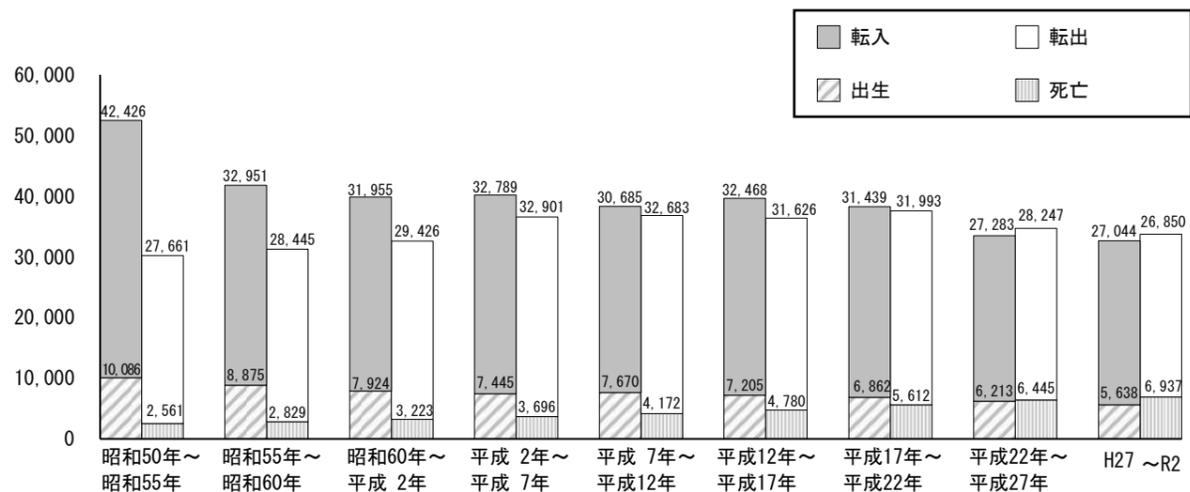
- 平成27年と令和2年の年齢3区分別人口割合を比較すると、年少人口の割合は0.8%減少、生産年齢人口は1.3%減少、老年人口は2.3%増加しており、少子高齢化が進んでいる。

<年齢3区分別人口割合>



- 出生・死亡による自然増減、転入・転出による社会増減ともに平成22年以降減少に転じている。

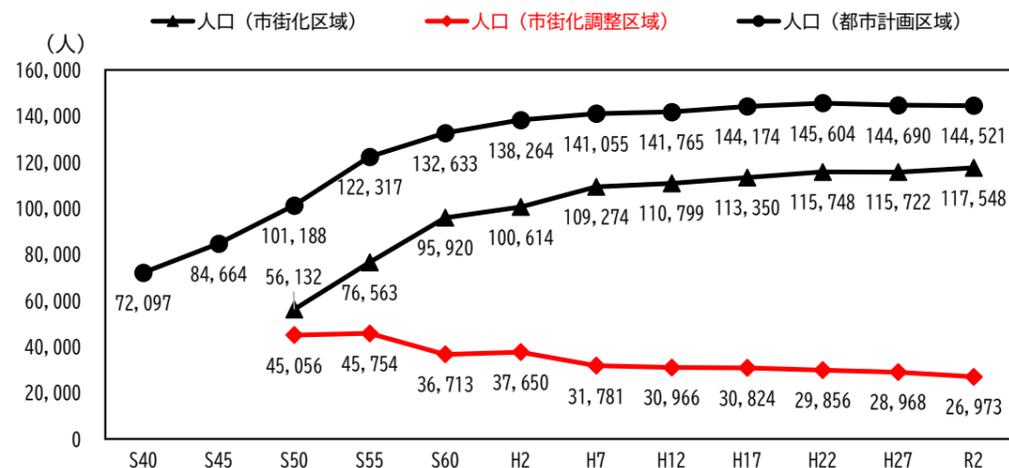
<人口動態の推移>



◎市街化区域の人口は緩やかに増加している。

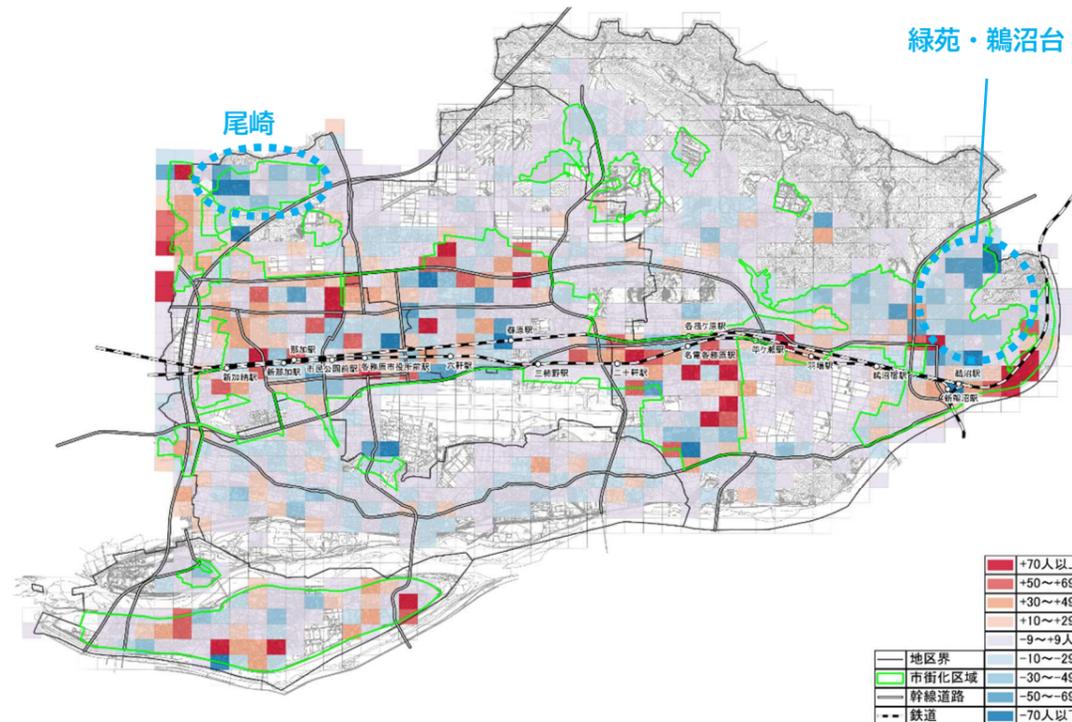
●一方、市街化調整区域の人口減少が顕著。

<人口の推移>



- 市街化区域においても、郊外の大規模住宅団地等では人口減少が進んでいる。

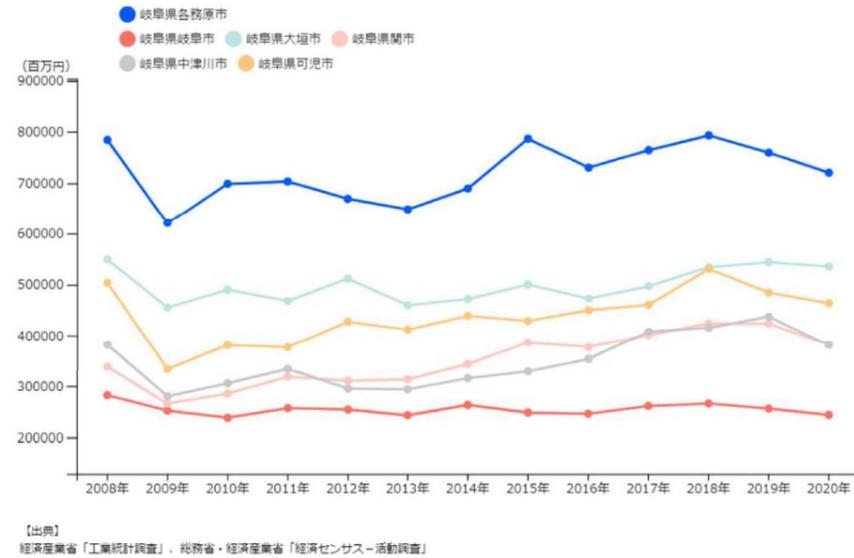
<人口減少(平成27年—令和2年)>



【産業】

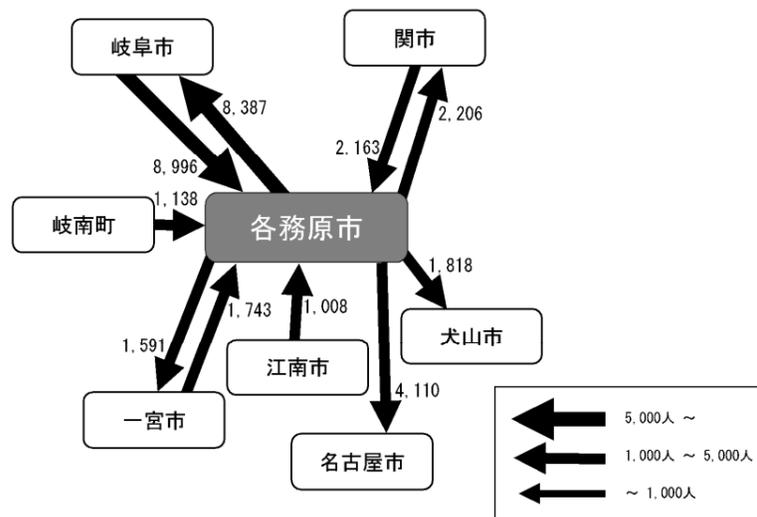
◎製造品出荷額等が県内 No. 1 のものづくりの街である。

表 製造品出荷額等



●通勤の流動を見ると、流出人口は 34,071 人、流入人口は 26,148 人と流出超過となっている。
◎名古屋市を中心とした愛知県も通勤圏内となっている。

<通勤の状況 (令和2年)>
主な流出先(通勤)



●昼夜間人口比率を見ても 100 に満たないことから、岐阜市や名古屋市への市外への通勤・通学者のためのベッドタウンとしての一面がある。
◎平成7年以降昼夜間人口は上昇し続けており、市内での雇用の確保が進んでいることが窺える。

表 県内主要都市昼夜間人口比率

		各務原市	岐阜市	大垣市	多治見市
平成 2年	常住人口(人)	138,264	410,324	148,281	94,036
	昼間人口(人)	124,318	434,512	157,261	84,551
	昼夜間人口比率	89.9	105.9	106.1	89.9
平成 7年	常住人口(人)	141,055	407,134	149,759	101,270
	昼間人口(人)	124,688	434,014	158,991	88,376
	昼夜間人口比率	88.4	106.6	106.2	87.3
平成12年	常住人口(人)	141,765	402,751	150,246	104,135
	昼間人口(人)	126,543	426,911	160,932	89,774
	昼夜間人口比率	89.3	106.0	107.1	86.2
平成17年	常住人口(人)	144,174	399,931	151,030	103,821
	昼間人口(人)	130,110	415,614	159,259	89,499
	昼夜間人口比率	90.2	103.9	105.4	86.2
平成22年	常住人口(人)	145,604	413,136	161,160	112,595
	昼間人口(人)	135,699	428,926	169,980	97,967
	昼夜間人口比率	93.2	103.8	105.5	87.0
平成27年	常住人口(人)	144,690	406,735	159,879	110,441
	昼間人口(人)	135,235	420,442	165,373	97,949
	昼夜間人口比率	93.5	103.4	103.4	88.7
令和 2年	常住人口(人)	144,521	402,557	158,286	106,732
	昼間人口(人)	136,598	411,497	163,768	96,784
	昼夜間人口比率	94.5	102.2	103.5	90.7

※平成2～令和2年の常住人口、昼間人口は「国勢調査」による。
※昼夜間人口比率 = (昼間人口 ÷ 常住人口) × 100

◎小売吸引力指数が 1.00 以上の都市であり、魅力ある商業の集積が図られているといえる。県内の人口規模の大きい自治体よりも高い数値となっている。

表 小売業の吸引力 (令和3年)

	人口 (人)	小売業年間販売額 (百万円)	県内小売業販売額割合	県内人口割合	小売吸引力指数
各務原市	143,635	163,117	8.2%	7.3%	1.122
岐阜市	400,179	436,421	22.0%	20.4%	1.078
大垣市	157,520	174,062	8.8%	8.0%	1.092
多治見市	105,453	115,939	5.8%	5.4%	1.086
岐阜県	1,960,461	1,983,957	-	-	-

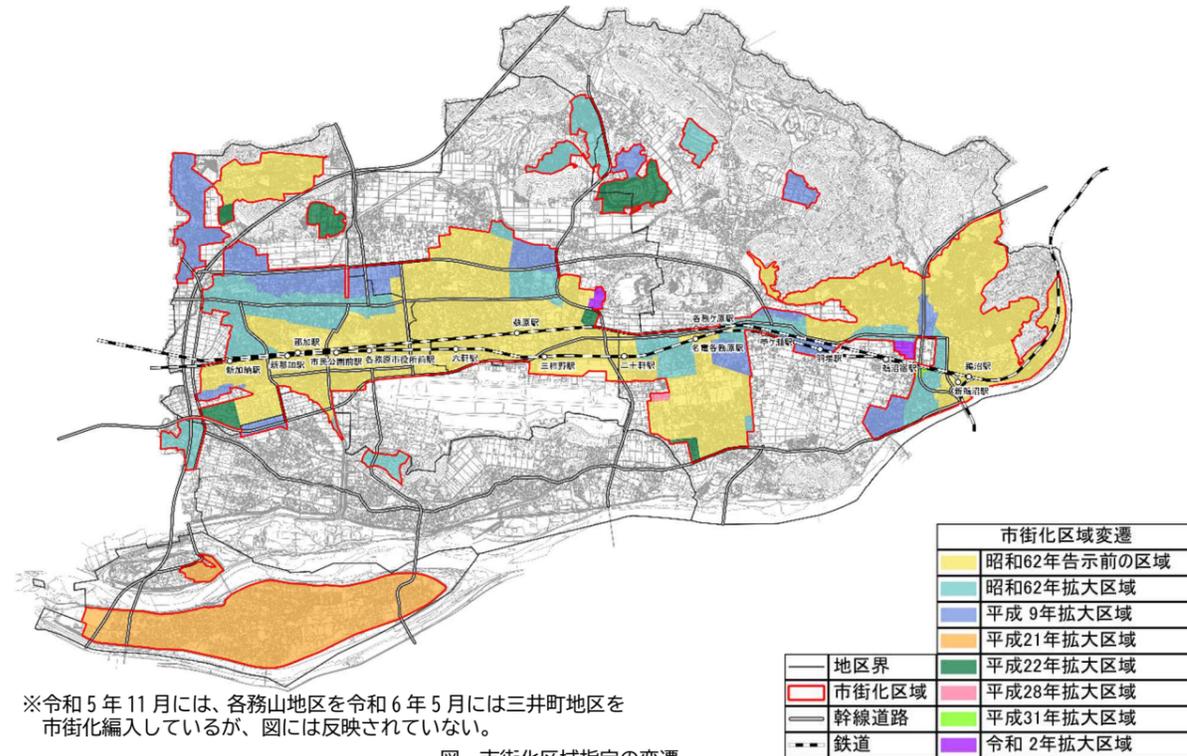
※人口は「岐阜県人口動態統計調査」、小売業年間販売額は「経済センサス」による。
※県内小売業販売額割合 = 各市小売業年間販売額 ÷ 県小売業年間販売額
※県内人口割合 = 各市人口 ÷ 県人口
※小売吸引力指数 = 各市人口 1 人当たりの小売業年間販売額 ÷ 県人口 1 人当たりの小売業年間販売額

2. 土地利用

現状整理 (◎本市の強み ●本市の弱み)

【市街地形成の変遷】

◎市中心部を東西に貫く鉄道、国道沿いに市街化区域を設定し、交通の利便性を生かした市街地の形成を行ってきた。高度経済成長期以降には、急激な人口増加に対応し、郊外に向けて段階的に市街化区域を拡大してきたが、平成22年以降は住居系の市街化編入は行っていない。



※令和5年11月には、各務山地区を令和6年5月には三井町地区を市街化編入しているが、図には反映されていない。

図 市街化区域指定の変遷

◎鉄道、国道沿いの市街化区域を中心に、約3割の市街化区域に、市全体の約8割の方が居住しており、集約型のまちづくりが進みつつある。

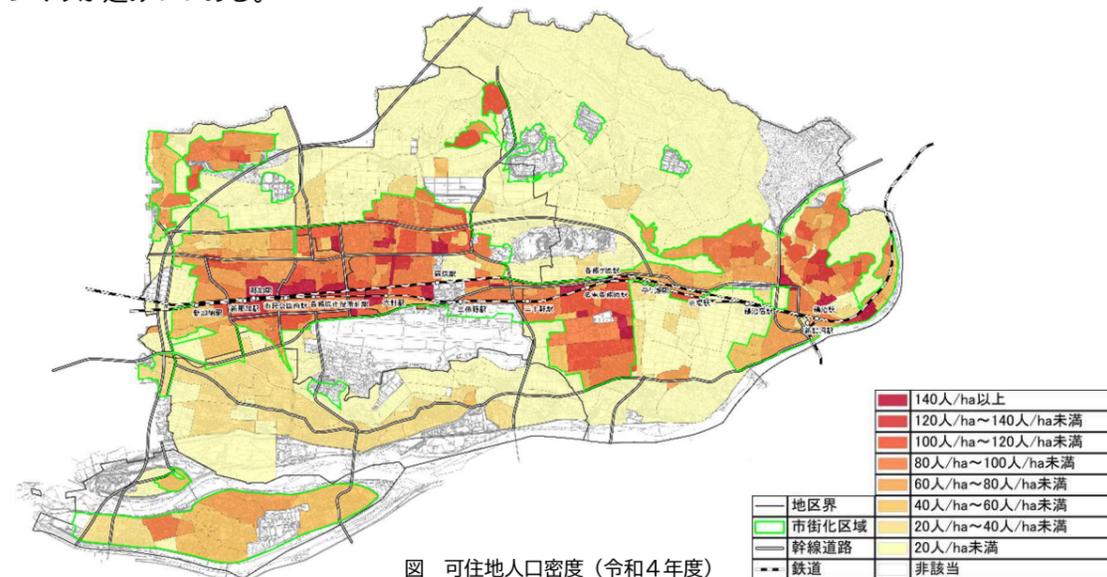


図 可住地人口密度 (令和4年度)

【立地適正化計画の策定】

◎人口減少が進む中でも、これまで進めてきた各務原市らしい“公共交通を軸とした集約型都市構造”へ誘導していくため、令和4年に立地適正化計画を策定し、居住誘導区域・都市機能誘導区域を設定した。

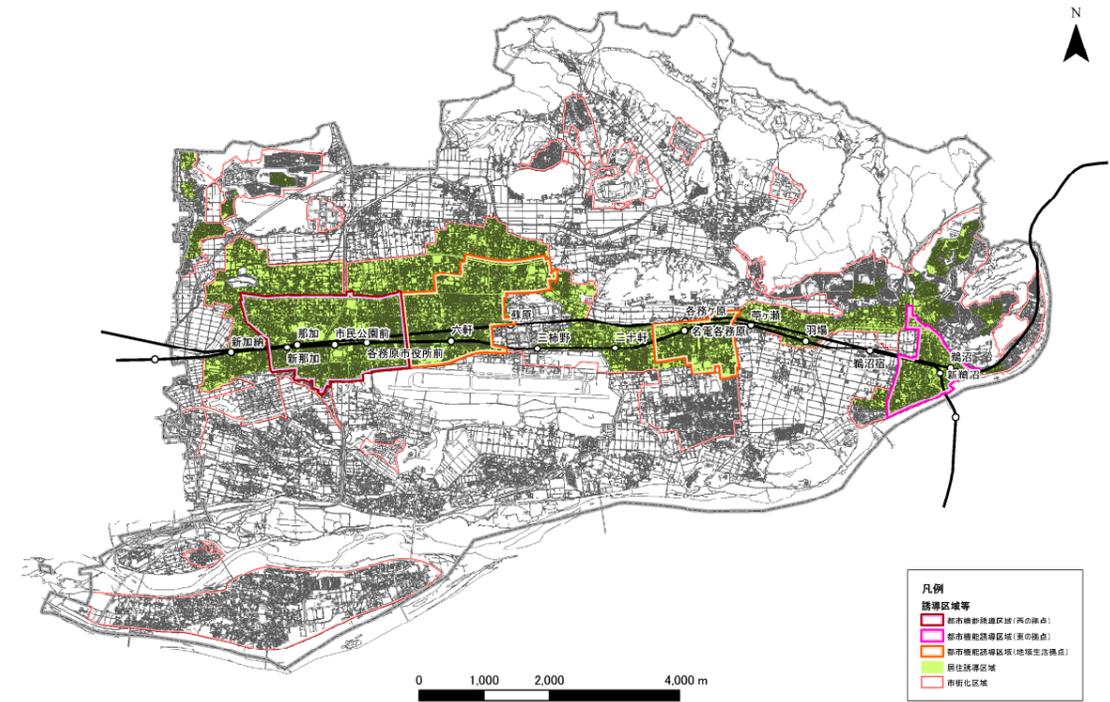


図 居住誘導区域・都市機能誘導区域

【拠点等への人口集約】

◎人口増減を立地適正化計画において設定した居住誘導区域内で見ると、2,250人の増加となっている。

表 10 地区分類別の人口

区域設定	地区分類	平成29年度(人)	令和4年度(人)	増減(人)	増加率(%)
都市機能誘導区域	西の都市拠点	14,940	15,020	+80	0.5
	東の都市拠点	4,640	4,890	+250	5.1
	地域生活拠点	17,910	18,070	+160	0.9
	住居系地区計画区域(都市機能誘導区域)	1,790	1,970	+180	9.1
	都市機能誘導区域 合計	39,280	39,950	+670	1.7
居住誘導区域	住居系地区計画区域(居住誘導区域)	4,590	5,210	+620	11.9
	小学校の日常生活圏	9,430	9,600	+170	1.8
	その他居住誘導区域	20,260	21,050	+790	3.8
	居住誘導区域 合計	73,560	75,810	+2,250	3.0
市街化区域	居住誘導区域外区域	42,210	41,740	-470	△1.1
	市街化区域 合計	115,770	117,550	+1,780	1.5
市街化調整区域	調整区域(小学校や駅周辺の日常生活圏)	5,070	4,830	-240	△5.0
	調整区域(その他)	23,850	22,140	-1,710	△7.7
	市街化調整区域 合計	28,920	26,970	-1,950	△7.2
都市計画区域 合計		144,690	144,520	-170	△0.1

※平成29年度人口は平成27年国勢調査の小地域人口を第10回都市計画基礎調査(令和4年度)の調査区で按分したものの。
 ※令和4年度人口は令和2年国勢調査の基本単位区人口を第10回都市計画基礎調査(令和4年度)の調査区で按分したものの。

【開発許可の運用状況】

●開発許可件数の推移では、市街化調整区域における許可件数が市街化区域の2倍近くで推移している。

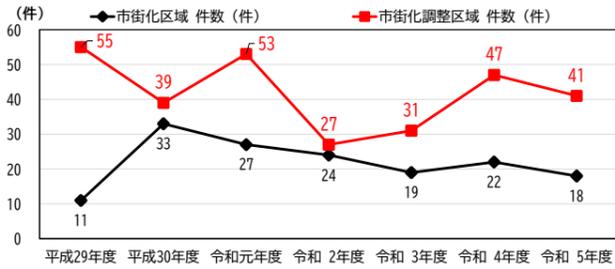


図 宅地開発事業の推移

●市街化調整区域における開発許可の一つである分家住宅の開発を中心に、市街化調整区域の宅地化が進行している

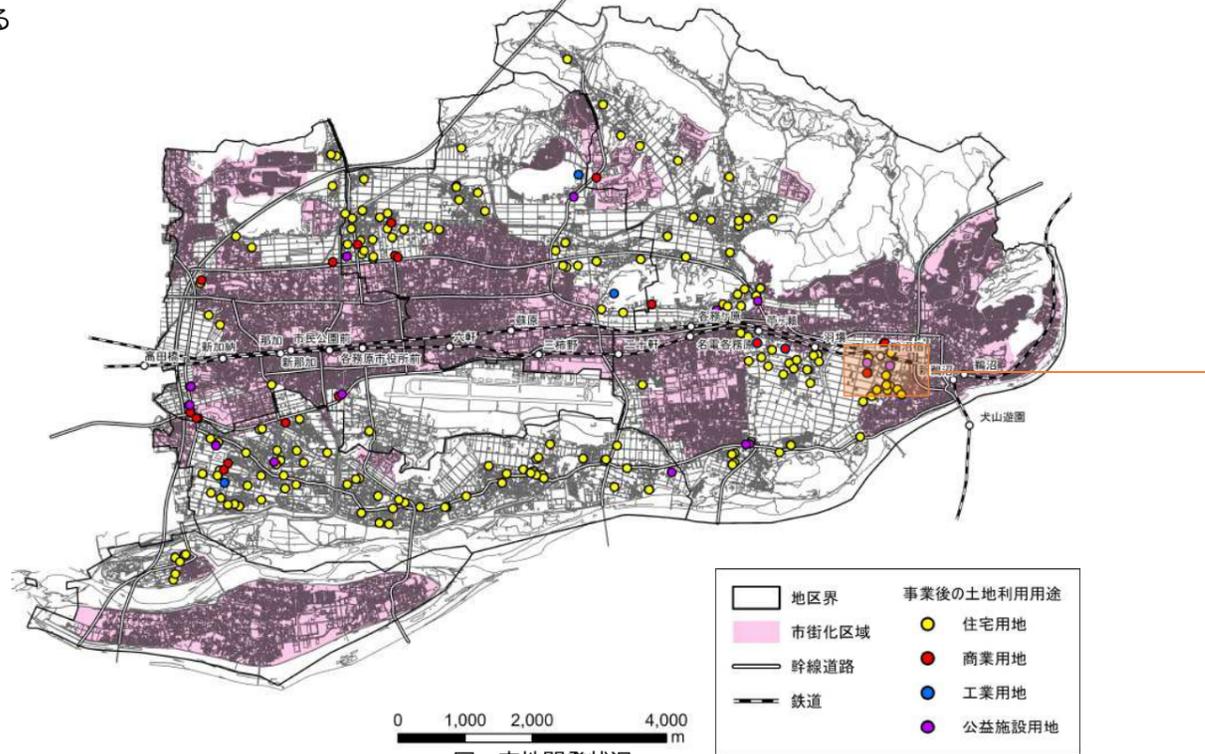


図 宅地開発状況

●鉄道駅周辺では、市街化調整区域でありながら、生活利便性が高いため、住宅のほか商業、公益施設用地の開発が行われ、無秩序な土地利用が進行しつつある。

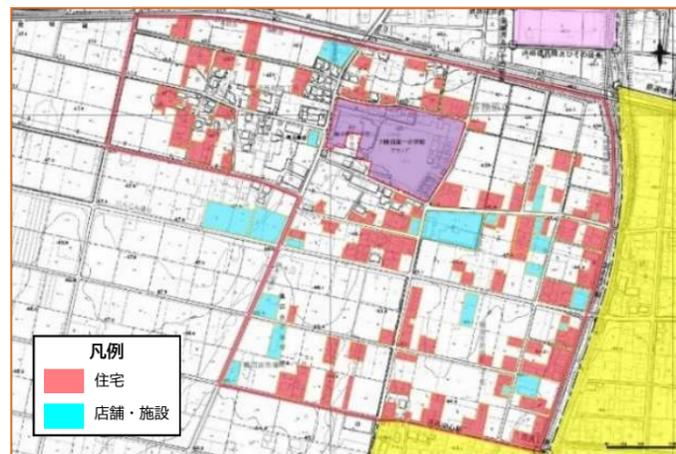


図 鶯沼宿駅周辺の土地利用状況

【工業用地】

●工業系用途地域内に一団の未利用地がない。

用途地域	番号	所在
工業地域	A	金属団地周辺
	B	大野町周辺
	C	蘇原三柿野町三丁目周辺
	D	鶯沼川崎町周辺
	E	テクノプラザ周辺
	F	須衛町七丁目周辺
	G	鶯沼各務原町一丁目周辺
	H	鶯沼三ツ池町五丁目周辺
	I	鶯沼朝日町周辺
	J	川島竹早町周辺
工業専用地域	ア	那加山崎町周辺
	イ	金属団地周辺
	ウ	上戸町七丁目周辺
	エ	川崎町周辺
	オ	各務東町五丁目周辺
	カ	鶯沼三ツ池町六丁目周辺

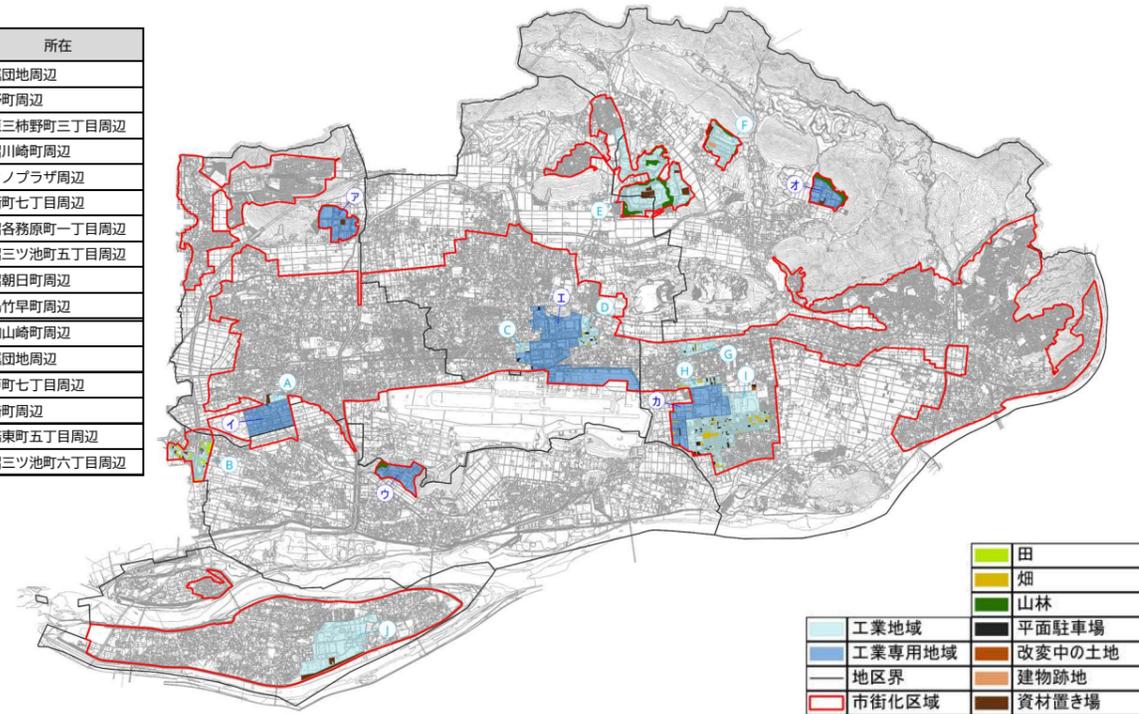
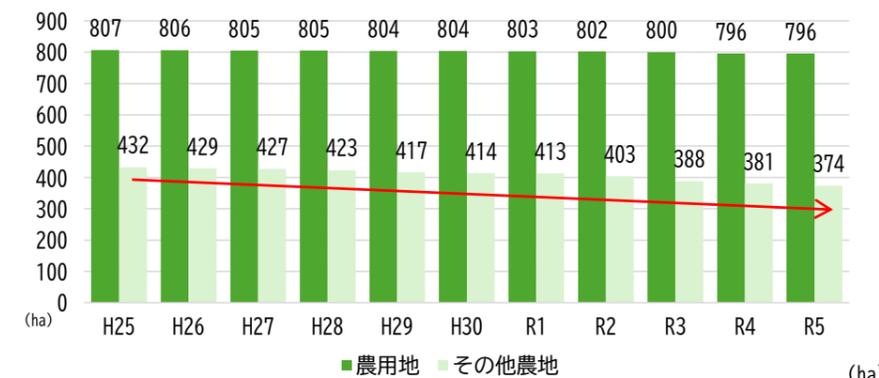


図 工業系用途地域内の低未利用地の分布

【優良農地の保全】

◎市街化調整区域の農地は減少傾向にあるが、農用地は平成28年～令和5年までで9haの減少に留まっている。
●農用地の除外は開発許可基準に基づく分家住宅等の個別除外や公共事業、市街化編入によるもの。



区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
農業振興地域	2,976	2,976	2,976	2,976	2,973	2,970	2,970	2,963	2,963	2,963	2,963
農用地	807	806	805	805	804	804	803	802	800	796	796
その他の農地	432	429	427	423	417	414	413	403	388	381	374
農地以外	1,737	1,741	1,744	1,748	1,748	1,755	1,754	1,765	1,775	1,786	1,793

図 農地変遷

3. 都市施設等

<道路・街路>

現状整理 (◎本市の強み ●本市の弱み)

【都市計画道路整備状況】

- ◎愛知県とを結ぶ新たな道路ネットワークとなる(仮称)新愛岐大橋の建設が行われている。
- ◎渋滞対策や緊急輸送道路としての役割、沿線の賑わい創出等の効果が期待される都市計画道路として、岐阜鵜沼線が事業化された。

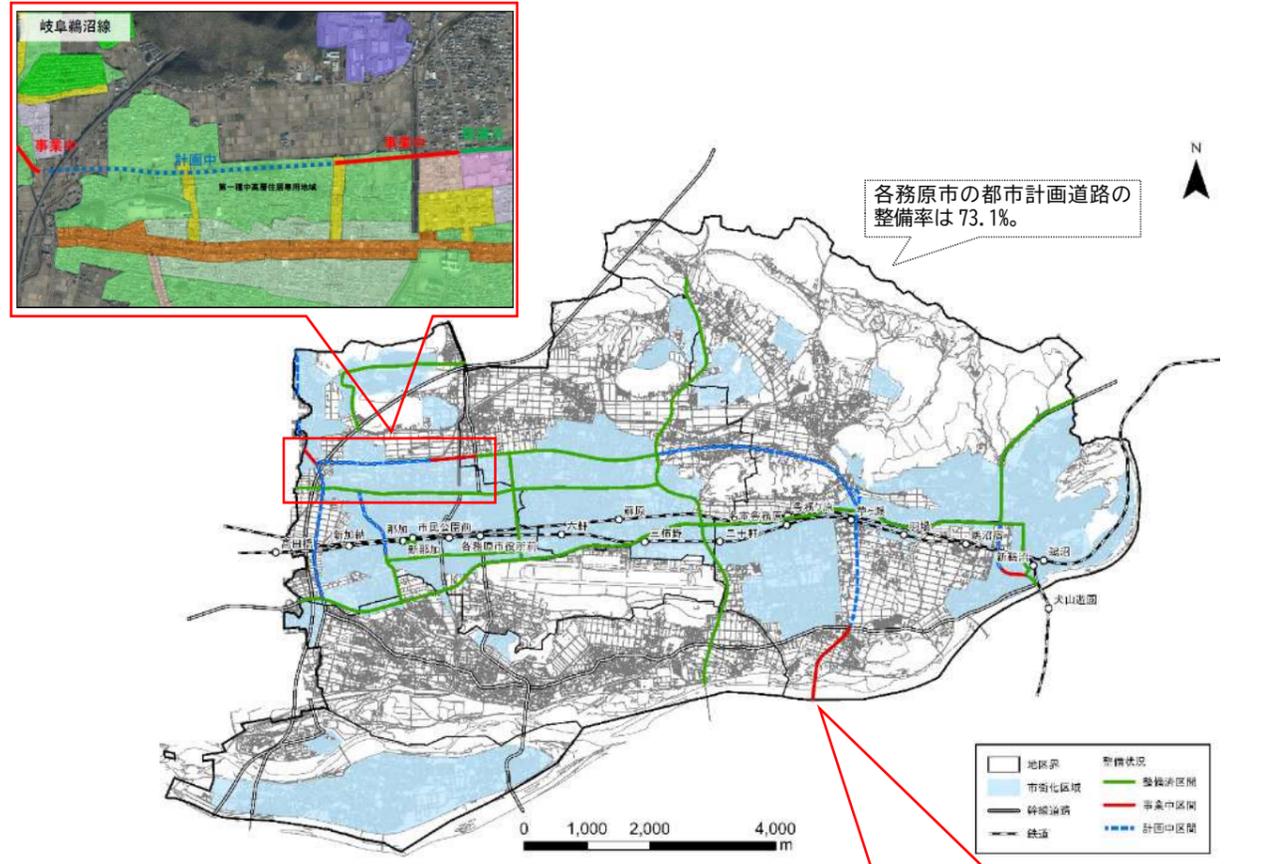


図 都市計画道路の整備状況



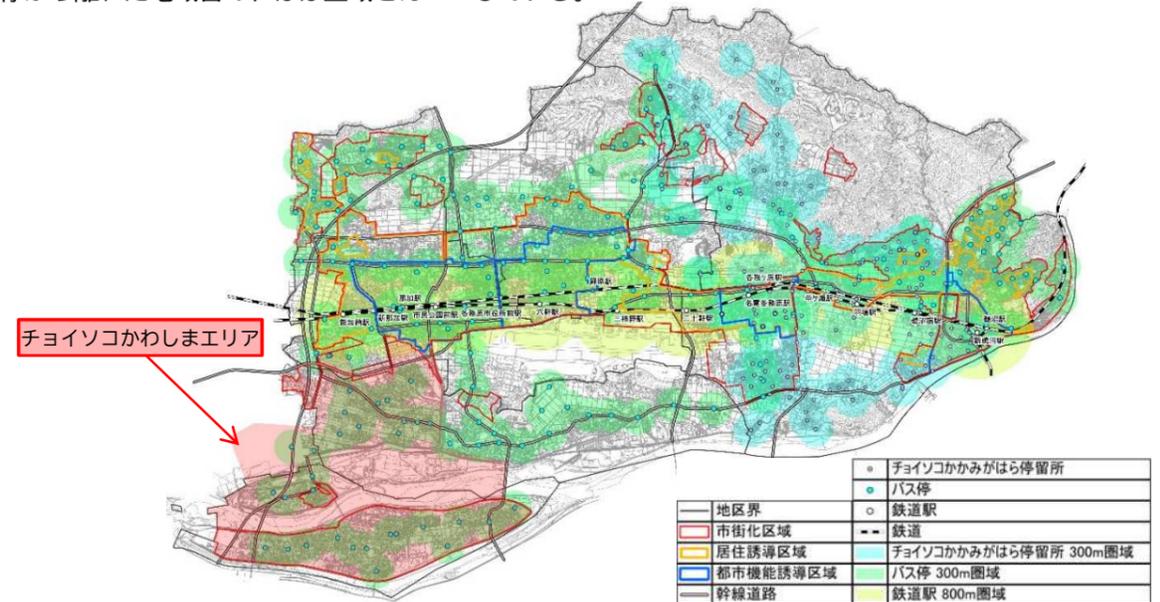
【生活道路】

- 旧集落地内等には緊急車両等の円滑な通行が困難な狭い道路(2~3m程度)が存在する。
- 建築基準法上確保しなければならないとされる道路幅員4mに満たない道路が存在する。

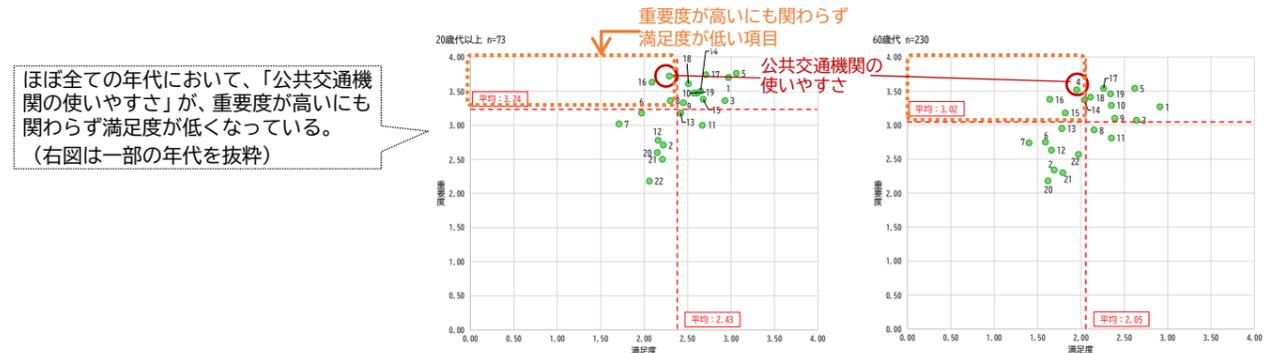
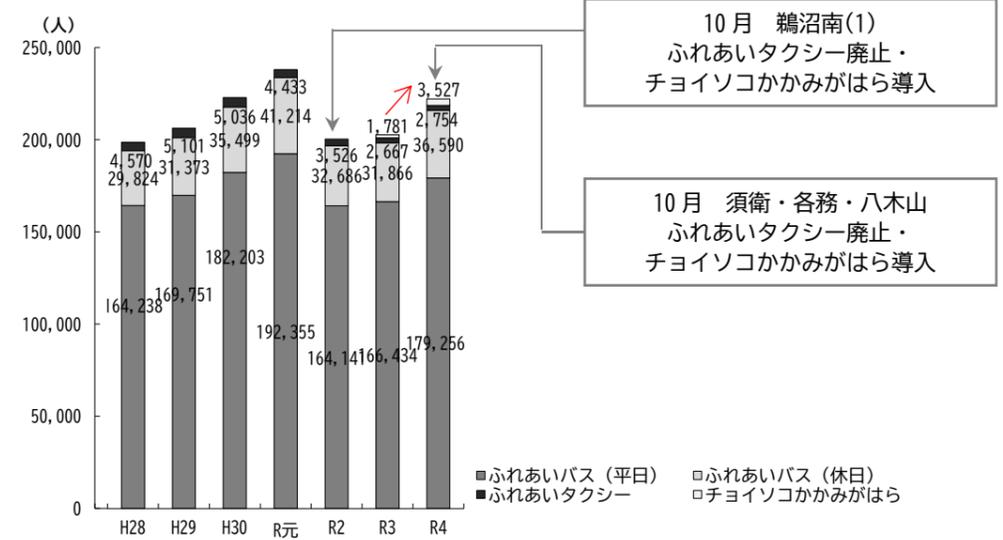
<公共交通>

現状整理 (◎本市の強み ●本市の弱み)

- ◎デマンド型交通「チョイソコかかみがはら」、「チョイソコかわしま」が運行開始したことにより、鉄道駅・バス停から離れた地域を含め、ほぼ全域をカバーしている。



◎令和2年以降において、公共交通機関の利用者は増加傾向にある。



<公園・緑地>

現状整理 (◎本市の強み ●本市の弱み)

【公園の整備状況】

- ◎計画決定されている都市公園は173箇所、計画面積は170.2haであり、一部を除いて供用開始済である。
- ◎都市公園法施行令に示されている標準値10㎡/人以上の都市公園を確保しており、他市と比べて高い水準。
- 一方、合計公園面積が大きく、公園施設の老朽化が進んでいるため維持管理コストの増加が懸念される。

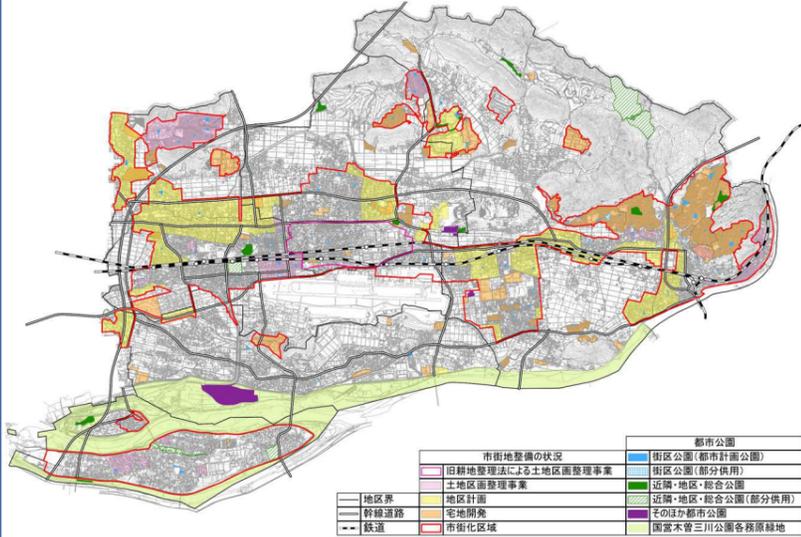
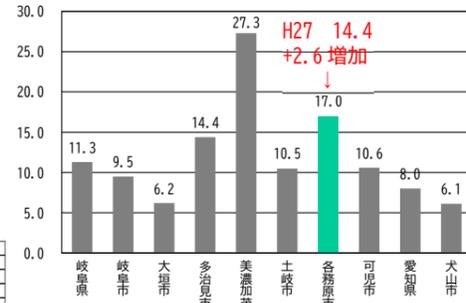


図 公園緑地の整備状況

表 都市別 都市公園一人当たり面積

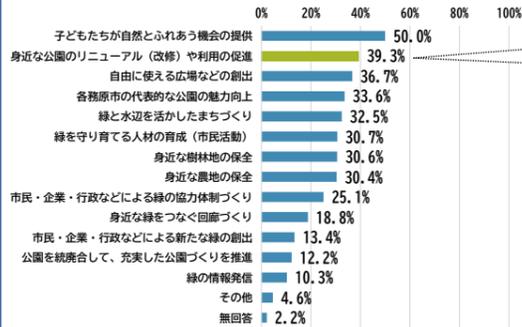


都市公園法施行令 住民一人当たりの都市公園の敷地面積の標準: 10㎡/人以上
 全 国: 10.8㎡/人 岐阜県: 11.3㎡/人
 愛知県: 8.0㎡/人 三重県: 10.7㎡/人

【公園のリニューアルや利活用】(緑の基本計画アンケートより抜粋)

- ◎引き続き、公園の有効な利活用の検討が必要である。
- 市民のニーズに応える質の高い公園としてリニューアルが求められている。

表 緑に関する取り組みで今後重要だと思うこと



身近な公園のリニューアル(改修)や利用の促進を求める声が多い。

表 都市公園の使用申請状況

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
申請数(件)	174	198	282	399	440	501

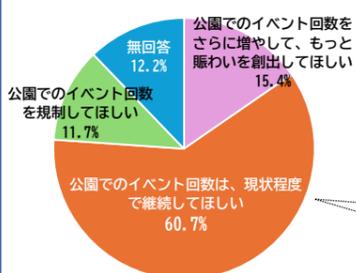


主要な都市公園別に集計(R2~R5)

	R2	R3	R4	R5	合計
市民公園	32	44	52	74	202
学びの森	60	92	110	121	383
自然遺産の森	25	34	34	29	122
合計	117 (41.4%)	170 (42.6%)	196 (44.5%)	224 (44.7%)	707



表 市内の公園活用について



「公園でのイベント回数をさらに増やして、もっと賑わいを創出してほしい」15.2%、「公園でのイベント回数は、現状程度で継続してほしい」60.3%と、公園の利活用を求める声が多くある。

<下水道・河川>

現状整理 (◎本市の強み ●本市の弱み)

【下水道の整備状況】

◎令和6年4月1日現在で、処理人口は121,264人、下水道普及率は83.9%である。

表 下水道の整備状況

供用区域 (令和6年4月1日現在)			
行政区人口(人)	処理人口(人)	整備済総量(ha)	下水道普及率(%)
144,451	121,264	2688.1	83.9

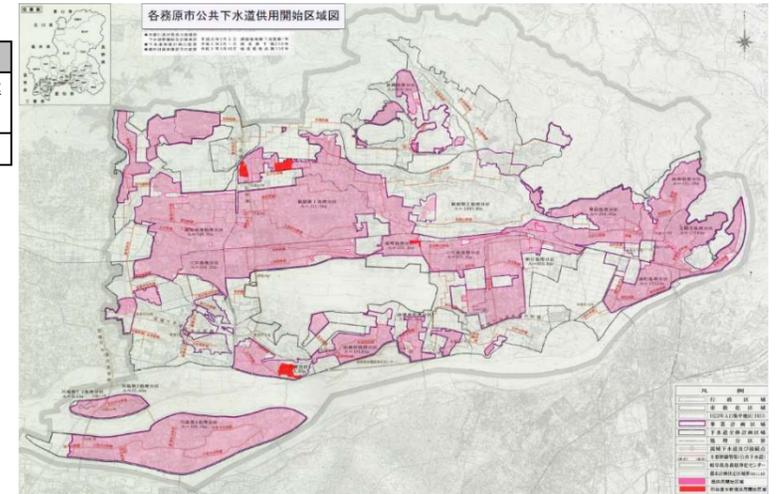
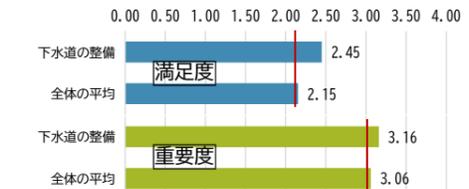


図 公共下水道供用区域

表 これまでのまちづくりの満足度と今後の重要度



(市民アンケート抜粋)

「下水道の整備」は満足度、重要度ともに平均より高い。

- 経年劣化により施設の老朽化が進んでおり、長寿命化を図る必要がある。

【河川・池沼の現況】

- 境川は下流河川断面が不足していることから、流域内における雨水の流出を抑制する貯留施設の整備等総合的な治水対策が必要。

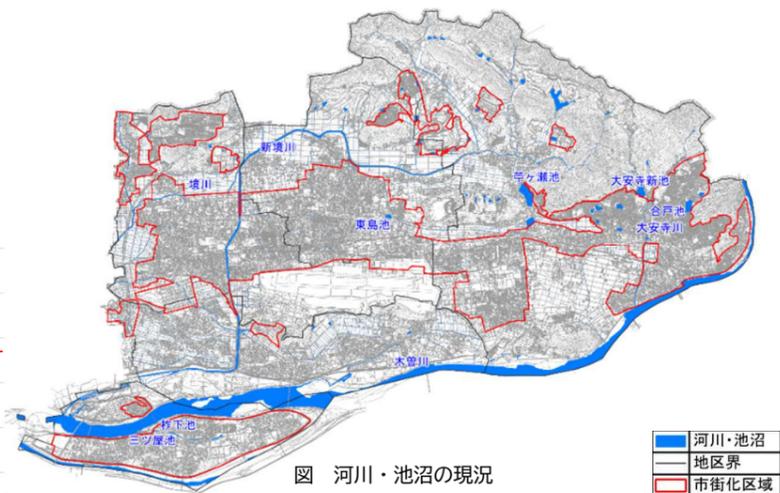
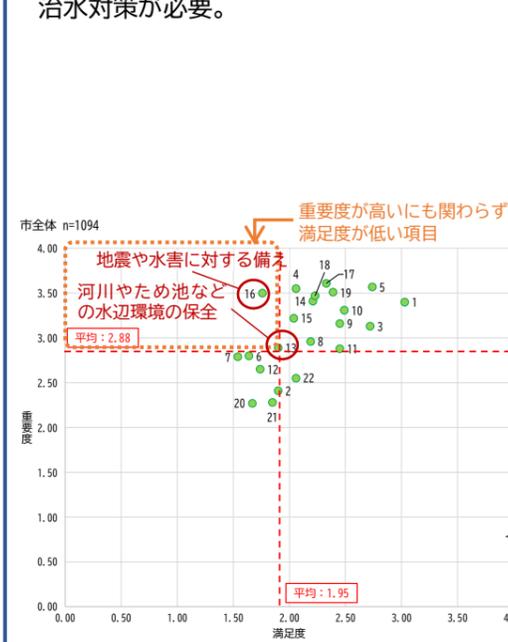


図 河川・池沼の現況

「地震や水害に対する備え」、「河川やため池などの水辺環境の保全」の重要度が高いにもかかわらず満足度が低くなっている。水辺環境の保全も重要視されており、各務原市が有する豊富な緑地環境に加え、河川やため池などの水辺環境の保全が求められている。

4. 市街地整備

現状整理 (◎本市の強み ●本市の弱み)

【市街地整備の状況】

◎鉄道駅沿線周辺を中心に、29 地区の地区計画、22 の土地区画整理事業が実施されている。

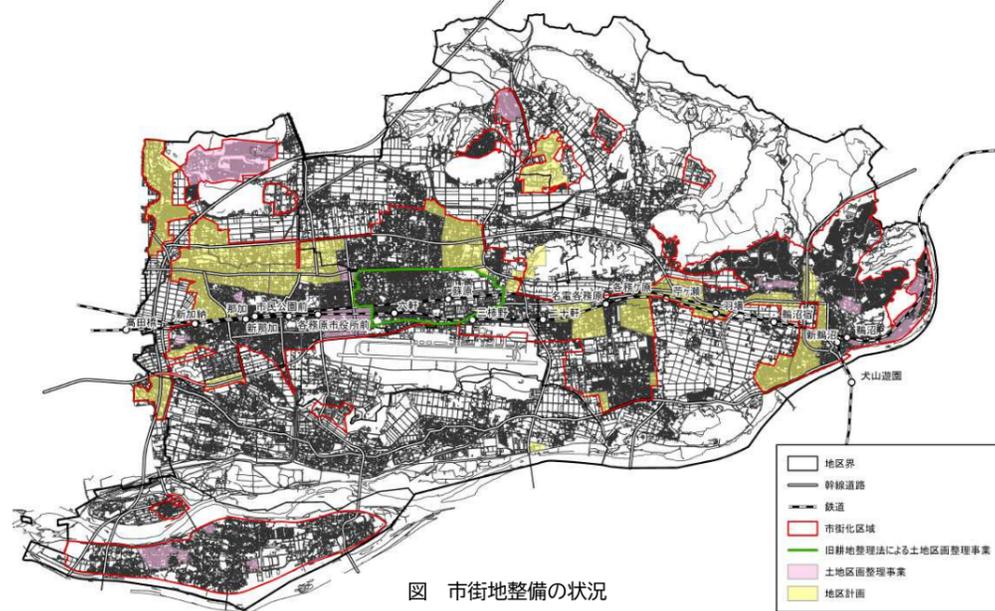


図 市街地整備の状況

●市内の地区計画道路本数は 226 路線、道路延長は 36.871km である。
地区計画道路の整備状況は、37 路線、10,214km が整備済みであり、現時点で約 28%となっている。

表 地区計画道路の整備状況

地区名	整備済路線数	整備済延長 (km)	整備対象路線数	整備対象延長 (km)	地区名	整備済路線数	整備済延長 (km)	整備対象路線数	整備対象延長 (km)
1 熊田地区	4	0.677	0	0.000	16 東島	一部	0.035	10	1.340
2 鶺沼西地区	2	1.457	2	0.034	17 おがせ	0	0.000	3	0.759
3 前洞A地区	一部	0.342	7	0.954	18 各務原南	7	1.678	13	1.865
4 朝日地区	2	0.303	1	0.115	19 羽場	2	0.282	8	1.510
5 前洞B地区	4	1.766	3	0.432	20 小伊木・古市場	0	0.000	17	3.102
6 中央地区	3	0.638	1	0.296	21 鶺沼東町北	1	0.075	2	0.151
7 三ツ池地区	-	-	-	-	22 三ツ池西	0	0.000	4	0.750
8 各務原地区	-	-	-	-	23 朝日西	一部	0.035	7	0.778
9 南町地区	-	-	-	-	24 テクノプラザ	-	-	-	-
10 大野地区	一部	0.055	16	2.240	25 前渡東町	1	0.260	0	0.000
11 那加北地区	2	0.062	40	4.240	26 鶺沼西町第二	2	0.407	0	0.000
12 西市場・前野地区	0	0.000	30	4.810	27 鶺沼南町	0	0.000	3	0.170
13 日新地区	0	0.000	4	0.605	28 各務山	0	0.000	3	0.929
14 那加バイパス地区	1	0.664	1	0.128	29 各務山の前町	-	-	-	-
15 巾下地区	6	1.478	14	1.449		37	10.214	191	26.657

※整備済み：地区内整備率 100%、未整備：地区内整備率 100%未満（整備中も含む）、-：地区内整備計画無し

5. その他の分野

<景観、歴史・文化>

現状整理 (◎本市の強み ●本市の弱み)

【市街地形成の変遷】

◎市内全域を景観計画の区域に指定し、各地域の特色に応じた一体感のある景観形成を誘導。その他、30 地区の重点風景地区、3 地区の景観地区では、各地区独自の景観計画に沿って、良好な景観形成を図っている。

表 重点風景地区

分類	地区
歴史的資源・風致を有する地区	中山道鶺沼宿地区、中山道新加納立場地区、加佐美神社地区、旗本徳山陣屋地区、宝積寺地区、河跡湖公園地区、ごんぼ積み地区
自然景観を有する地区	おがせ池地区、木曾川河畔地区、エーザイ川島工園地区、権現山東部地区、三井山地区、木曾川河畔上流地区、各務山西部地区
都市施設が集積している地区	都心ルネサンス地区、鶺沼駅前地区、市民会館周辺地区
主要な道路・河川に隣接する地区	岐阜各務原 I.C 周辺地区、木曾川沿い地区、新境川沿い地区、境川沿い地区、大安寺川沿い地区、坂祝バイパス沿線地区、渡橋周辺地区、河田橋周辺地区、愛岐大橋周辺地区、(仮称)新愛岐大橋周辺地区、前渡東町地区、各務原大橋通り沿線地区、前渡西町地区

表 景観地区

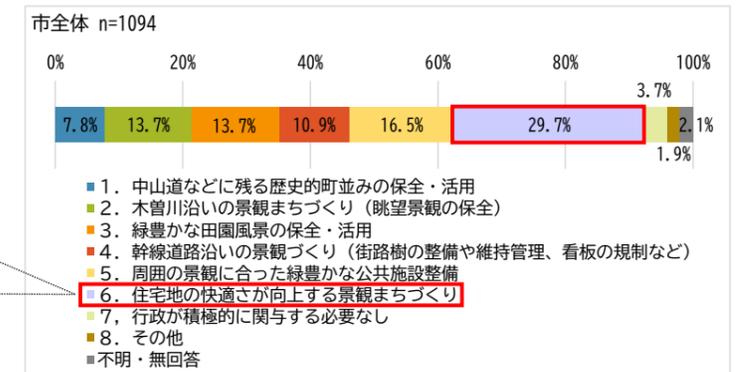
分類	地区
良好な景観形成を積極的に推進していく地区	テクノプラザ景観地区、グリーンランド柄山景観地区、各務山西部地区景観地区



テクノプラザ景観地区



グリーンランド柄山景観地区



今後の景観の取り組みとして、「住宅地の快適さが向上する景観まちづくり」を進めるとよいつの回答が最も多く、引き続き景観計画に基づき市内の景観を維持する取り組みを推進する必要がある。

【歴史・文化資源を生かしたまちづくりの推進】

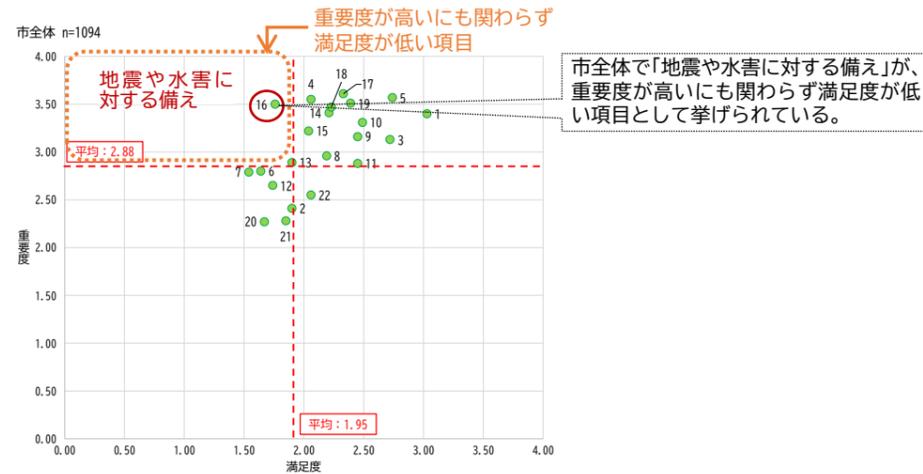
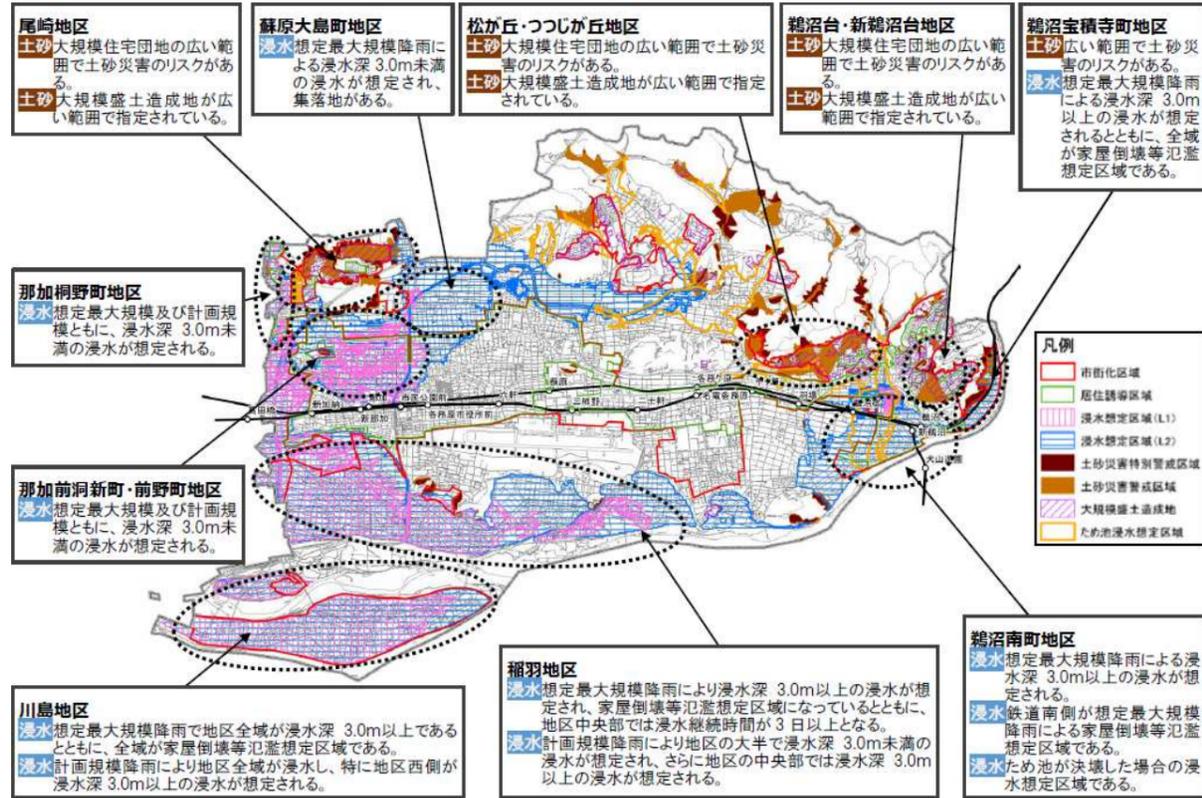
◎中山道鶺沼宿や新加納立場、村国座（子供歌舞伎）などの歴史的・文化的資源が数多く存在している。

<安全安心>

現状整理 (◎本市の強み ●本市の弱み)

【災害リスク】

●市内には土砂災害、浸水リスクのある地域が存在している。



【歩行者の安全】

◎交通安全対策として、交差点の防護柵や通学路のカラー舗装を実施。

●交通事故・防犯に対する対策の促進

- ・市民アンケートにおいて、児童の通学路の街灯やガードレールを増やし、市民が安心して歩けるようにしてほしいとの声が複数挙がった。

【市民アンケート (自由意見より)】

- ・幹線道路や地域内の子供の通学路をガードレール化してほしい。
- ・通学路の交差点と交差点までが交通が多く、非常に危険。ガードレールをつけるか、通行禁止のとりしまりを行ってほしい。

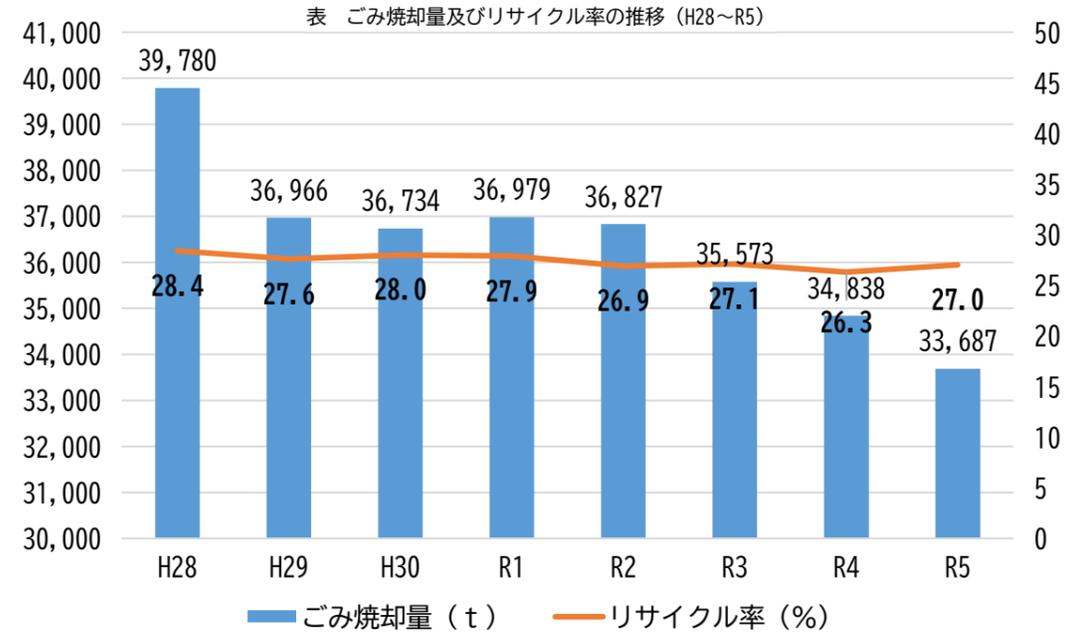
<環境対策>

現状整理 (◎本市の強み ●本市の弱み)

【ごみ焼却量及びリサイクル率の推移】

◎ごみ焼却量は年々減少傾向にある。

◎リサイクル率は27%前後と高水準を維持している。(国：19.6%、県：16.9%(令和4年度実績))



【温室効果ガス排出量の現状】

◎本市の温室効果ガスの排出量は、年々減少傾向がつついており、平成25年度から令和2年度にかけて22.5%減少している。

表 温室効果ガスの排出量の推移

